

河北町ボランティア作文コンクール優秀賞

西里地区きれいきれいプロジェクト

六年 布川 絢加

六年生になったある日、先生が、

「みんなのため、自分のためになることを、プロジェクトにしよう
てみるのはどうでしょう。」

と言いました。私は何をしたらいいんだろうと考えました。そこで思
いついたのが「ゴミ拾い」です。歩いていてゴミを見つけても、「ゴ
ミを入れる袋も持ってないし…」と思って拾ってなかったからです。
だから、思い切っちゃってみようと思いました。そこで、愛真さん
と二人で「西里地区きれいきれいプロジェクト」を立ち上げました。
西里の道を歩いていると、「コンビニの商品の「ゴミやタバコ」などいろい
ろなゴミが落ちています。」きれいな西里にしたい」という気持ちで、
このプロジェクトをすることにしました。

六月二日、西里のコンビニからスタートして、ゆきほんというパン
屋さんまでの国道二八七号線そいの歩道の「ゴミ拾い」をしました。十時
から十一時ごろまでやりました。その日は十一時ごろから雨だったの
で、むしむしします。「ゴミをばさむと、車輪がついたもの「ゴミ
ミ袋を入れた段ボールをつけて準備しました。歩道の真ん中には「ミ
は落ちていないので、歩道のはしを見ながら歩きました。特に雑草が
生えているところは注意です。地面や草むらひの「ゴミ」を二
人で助け合いながらトンクを使ってはがして取りました。落ちてくる
袋の賞味期限を見て、愛真さんと、

「なんで「ゴミ」こんなずつと前の食べ物の袋が落ちてんの。
」ちょっと歩いただけなのに、「なんでこんな「ゴミ」があるの
とあきれました。

コンビニの近くでゴミ拾いをしていたら、出てきた人が、笑顔で、
「ありがとう。」

と言ってくれました。その言葉がうれしかったし、やりがいがあるな
と思いました。

「ゴミ拾いをしてみて、意外とゴミがあると思いました。一番多いのは
「たばこ」です。車の中をよこしたくなかったから捨てたのでしょ
ほかには、車のゴミのようなもの、ティッシュやおかしの袋なども多
かったです。また、不思議だったのは、「コンビニの「ゴミ箱があるのに、
「ゴミが近くに落ちていっている」ということです。「ゴミ箱があるのだから、きちん
とそこに入れてほしいと思いました。」

二人だけのプロジェクトですが、さみしいかももう少し人数がほ
とか、あまり思いませんでした。二人でがんばろうと思っていましたが、
いざやってみると「ゴミが多くて、二人だけでは拾いきれませんでした。
もう少し人数が多ければ、もっときれいになったのになと思いました。
「きれいな西里にしたい」という気持ちで、このプロジェクトをするこ
とにしたのですが、これから自分たちができることは、時々「ゴミ拾い
することです。二八七号線を車で通る人に注意することはむずかしい
ことです。でも、「ゴミ拾いをしている姿を見かけたら、そこから入んに
に捨てられなくなるのではないかと思います。また、友達とお菓子を食
べているとき、

「お菓子の「ゴミ」は「ゴミ箱」から捨てよう。」



「西里地区きれいきれいプロジェクト」をやってみて、先生が言ってい
た「みんなのため、自分のためになること」を考え、やってみることが
できました。やってみて、意外と楽しかったです。「ゴミ」のある西里は
ずかしいのよ、「ゴミ」拾いを時々やらたいと思っています。

